

20230808 話「福音伝道者は互いに助け合う」

([20]上手に話を締めくくる。塔 13 5/15 7 ページ 17-19 節)

1. (福音伝道者としての効果性や喜びを高めるため共に野外で働く)

福音伝道者として私たちが進歩したり喜びを経験したいのは、人々の命が関係しているだけでなく、エホバに対する賛美や感謝を示したいから。どのようにできる? 一つの方法は野外で共に働くこと

2. どんな模範があるか?

イエスが弟子たちを伝道に二人ずつ遣わしたことと、**ヨハネ 4:3**「良い知らせを広めるために自分と肩を並べて一生懸命働いてきた…共に忠実に働く仲間」というパウロの表現からも、仲間と共に働く大切さ理解実際にこうした先例に倣い、1953年に「宣教で他の人を訓練する」というプログラムが開始された

3. では野外で仲間と働く時実際にどのように助け合えるか? (ヨハネ3:6 - 9各々役割果たす)

仲間の後ろに付いて家から家を訪問するとき、どんな3つの点に注意できるか?

- ① 奉仕者が使う聖句を自分も開き、話合いにしっかり付いて行⇒反対意見に対処するようサポート可
- ② 話に無理に割り込んで主導権を取ったりせず。例え話し合いに加われても、控え目に発言する
- ③ 奉仕中証言の改善について話し合えても、区域の人々批判したり、消極的なコメントを述べたりせず

4. さらに、何を思い起こすのは良いことですか?

わたしたちが土の器であること。エホバは、良い知らせを宣べ伝える業という宝を託すことによって、私たちに並々ならぬ親切を示し、力を与えてくださった(ヨハネ 4:7)

共に野外で働くこともエホバのご親切で、技術の向上だけでなく、平和や一致や喜びを経験できる年若い仲間からヒントを得たり、経験を積んだ奉仕者と共に喜びを味わえる。そういう意味でも宣教は宝

5. では宣教で共に助け合い、エホバへの賛美/感謝を増し加えられることを考慮できた

宣教という宝に対する認識示し、福音宣明者の役割十分果すため、共に働き、助け合う機会を大切に